

精神科病院での子どもへの支援

特集にあたって

「こども政策の推進に係る有識者会議」（内閣官房）では、少子高齢化の進行と児童虐待相談対応件数・不登校の増加が取り上げられ、これらは「危機的な状況」であり「課題が深刻化」としていると報告された。国が対応を進める中で精神科領域での子どもの支援も多くなり、本領域での作業療法士の実践も増えている。

地域に視点を移せば、以前は地域社会で扱われていた子どもの問題が、社会構造の変化に伴って、現代では精神医療の領域で対応することが求められるようになった。現代社会は個のスタイルが尊重され選択肢は広がったが、一方で個人の責任のもとに生きていかなければならないという厳しさも兼ね備えている。このような時代に生きる子どもたちに、作業療法士はどのような支援ができるだろうか。

今回の特集は、精神科領域における子ども支援の取り組みについてである。子どもに係る国の方針を概観しながら、同時に、医療でかわる個への支援の実践を通して、作業療法士が社会から望まれていることや役割を示す。さらに、子どもは成長し大人になっていく、いわば時間的・空間的広がりをもつ存在であるから、職種や領域を超えた横断的な支援も重要なポイントになる。多職種連携や移行の支援、地域連携についても紹介し、「子どもの育ちに合わせた支援」を読者と考える機会にしたい。

（鈴木 扶希）

企画担当

鈴木 扶希（東北福祉大学せんだんホスピタル、作業療法士）

香山 明美（東北文化学園大学、作業療法士）

長野 敏宏（御荘診療所、医師）